



玄関前に聳えている樺も年月を重ねてきた。毎日見ているものにとってはそれほどの実感はない。だが、久しぶりに訪れる卒業生にとっては大きさがわかるらしい。

修徳橋から見る両側の木々はこんもりとして小さな「杜」を思わせる。微細にみるとさまさまな移りかわりに気がつくだろう。

長年馴染みだった校舎の校名表示も「城西川越中高」とシンブルに書きかえられた。その上に略称の「JK」も配置された。中学も開校三年目、これで六学年が全部揃った。校舎内は前にも増して賑やかな歓声で包まれている。この元気さこそが本校の明日を支える源泉ではないだろうか。

「一粒の麦もし死なずば」大地に種子を蒔き、それを収穫する。大きな稔りを期待したいのはだれでも同じことである。この生徒たちが大きく羽ばたく、そんな姿を樺はみつめている。

# 同窓生の皆さんへ



同窓会会長（一期生）

大坂谷 良弘

はじめに、前回の会報でお願いさせて頂きました。会報「城友」発行の資金造成につきまして、一言お礼を申し上げます。

たいへん多くの同窓生の皆さんに主旨をご理解頂き、ご協力を賜りましたこと、誠にありがとうございます。誠にありがとうございました。役員一同、感謝の気持ちで一杯です。また、同時に充実感というのを感じています。この「城友」が皆さんの心にどのよう

に届いているのか、いつも気になっておりました。それが、多くの皆さんのご理解と、激励の手紙や電話を頂くことで、手前勝手な解釈かもしれませんが、ほとんど手探り状態で始めた同窓会活動に、これからの活動の方向を確立させたように感じています。

次に、平成六年度の活動報告ですが、左にあるとおりで、例年の会報の発行とけやき祭の参加に加えて、二十周年記念事業の実

## 平成6年度 同窓会活動報告

- 5月 本役員会  
・本年度活動計画  
・会報発行予定の検討  
・けやき祭参加について  
・20周年について  
・その他
- 6月 役員会  
・会報について  
・内容・レイアウト検討  
・原稿依頼者の決定  
・けやき祭参加について  
・なまず号に決定  
・企画部員の選出  
・20周年について  
・開催時期・実行委員
- 9月 役員会  
・20周年実行委員会  
・20周年正第一回  
・役員会
- 11月 役員会  
・20周年実行委員会
- 2月 役員会  
・20周年実行委員会
- 3月 会報「城友」発行

行委員会の発足を行いました。実行委員は、卒業年次に一名ずつ選出し、一回目の実行委員会を九月に開催しました。委員長には二期生の高柳康雄さんが選ばれ、今年の八月開催を目指して頑張ります。

でもらっています。今後も、会報「城友」の発行継続と内容充実を努力していきたいと思っております。尚一層のご理解と協力のほどよろしくお願い致します。

## 94年を回想して



同窓会幹事長（二期生）

猪瀬 晴久

同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。94年は激動とはいかぬまでも、話題の多かれし年ではなかったかと思えます。印象深かった事柄を順に追いかけてみました。

一月 ロサンゼルス大地震  
耐震構造の設計に欠けるところの建築物がいかに脆いものか愕然とした。

二月 冬季五輪  
スキヤングルで盛り上がった。

三月 ネッシーはおもちゃ  
世の中そんなもんかという感じ。

四月 中華航空機墜落事故  
いかに円高とはいえ補償金の絶対

やはり大阪は、他人事のような気がしてならない。  
十月 大江健三郎氏ノーベル賞  
性的人間などを読んだ記憶はあるが、恥しながら親しみは薄い。

十一月 円高後最高値  
USS196円11銭遅ればせながら来ましたという感じ。私の業界は黙って減収・減益。

十二月 石川源四郎仮出獄  
大学時代キャンパスを見たがスターを思い出す。流れた歳月を思うと敬称を呼ばれる日が来ることを願ってしまふ。

この中で、身近な話題を取り上げますと、猛暑における洪水が非常に深刻であった事ではないかと思えます。その結果多くのメーカーが生産減を余儀無くされ、ブランドの維持の為船舶による工業用水の海上輸送を実施するといった事体も発生しました。日頃私共は、水の恩恵というものを実感として強くことは、ほとんど無いことと思えます。水のごとく不可欠とはいかないまでも、学校に続くものとして、同窓会活動を活性化していきたいと思えます。最後になり恐縮でございますが、先日は、募金のご協力に、数多くの方々にご賛助頂きました。誠にありがとうございます。まずは、紙面を借りて御礼とさせて頂きます。

## OBだより

# 頑張ってます!!



### あのひと言



九期生  
宮川 浩之

高校を卒業して、はや十数年が経ち、現在は、吉見高校で国語の教師として、また野球部の監督として、頑張っております。ここまです、どうにかたどりつづけたのも、高校時代や、教育実習の時に、御指導下さった先生方のおかげであると、思っております。

高校三年夏、私は、あることで悩んでおりました。それは、体育系の大学に行き、野球を続けるという夢が、ツイカンパンヘルニアという病気にかかり、現役を引退することを余儀なくされてしまったことでした。私は、もう一度ボールを握りたい、そんな思いだけが、頭の中で、渦巻いておりました。そんな時、その当時担任だった木村誠次先生が、「そんなに野球がしたければ、教師になって監督になつてみてはどうだ。」と、おっしゃって下さったのです。私は、木村先生の影響で国語の教師を目指すことになりました。

### 出会い



十一期生  
山田 弘明

もしあの時、木村先生のひと言がなかったら、きっと今、違った道歩んでいたらと思います。私は、こうした先生方の恩に報いるために、今後も自分を磨き、城西川越高校の卒業生として、恥しくない様、努力していきたいと思っております。

最後に、御世話になった先生方の益々の御活躍を祈念して、筆をおきたいと思っております。

人生に於いて出会いほど重要なものはないと思えます。同級生や先生方、そして偶然に出会う人達。その出会いのほとんどは一瞬、或いは一定期間のみの付き合いで終わってしまうでしょう。しかし、その中には自分の人生に少なからぬ影響を与えるものも多々あるはずで、そして、その出会いを生かすのも無駄にしようものもその人次第でしょう。



二期生  
高柳 康雄

### 母校に帰って

市に勤務していますが、私がこの世界に入ったのも、枝野との関係もまた偶然の出会いからでした。以前、私はサラリーマンとして味の素グループの企業に勤務していましたが、その仕事の傍ら休日などに東京政経塾というところで街頭遊説などの活動を行っていました。そして、そこでの活動を通して衆議院議員で松下政経塾出身の野田佳彦と知り合い、サラリーマン生活に終止符を打ち、秘書になりました。そして、ある日出席したパーティ会場で出会ったのが枝野幸男でした。その後、色々な機会に話し合いを重ね、互いを重要なパートナーと認識し、行動を共にすることになったのです。

この二人との出会いが私の人生に一大転機をもたらしました。私はこれからの出会いもこの出会いのように大切にしたいと思います。

んだ私にとって最も驚くことは、生徒の質の変化です。当時は、全てにおいて基本的な事柄の習得が中心でした。現在は違います。基本を基に応用・発展に重点が置かれています。本当にこの子達が我々の後輩かと思えるばかりです。教師になった初年度、象徴的なことが起こりました。英文法の時間、「仮定法」の基本事項を板書していたときです。生徒の一人が手を上げました。「先生、黒板に書いてあることはもう分かっています。もっと受験に直結する事柄を教えてください。」このときは本当にびっくりしたと同時に、焦りました。前日の二時間の教材研究は水の泡、残りの約四十分どうしようかと。結局、自らの経験を基に「人生の生き方」について熱弁をふるったことを今でも良く記憶しています。

城西川越高校も二十三年目を迎え、受験高として高い評価を受けるまでに成長いたしました。

私が最も楽しみにしていることは、将来、先輩、同級生、後輩あるいは教え子達の御子息とともにこの学舎で苦業を共にできるかもしれないということです。

卒業生の皆さん、ぜひ母校に足を運んで下さい。教職員一同、お待ちしております。

# 寄付者一覧

同窓会創設二〇周年にあたり、諸活動に資するため寄付を募りました。四五〇名の方々から合計一、四七三、〇〇〇円の寄付が寄せられました。貴重な志を今後の同窓会活動に役立てていきたいと思ひます。以下に寄付者の氏名を掲載し、感謝のしるしとさせていただきます。ありがとうございます。

- |       |       |         |       |       |       |       |       |        |       |       |       |       |       |       |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |      |
|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 青木 健一 | 養輪 昌治 | 吉田七郎(栄) | 松本 弘和 | 小澤 龍介 | 小澤 謙一 | 松浦 泰雄 | 村田 昌彦 | 猪鼻 寿良  | 岡 一   | 高山 聡  | 小林 洋  | 高木 保  | 浪川 浩明 | 桑原 正喜 | △15口▽ | 木下 剛   | △10口▽ | 立川 和央 | △5口▽  | 溝口 秋彦 | 黒澤 和義 | 内村 良一 | 木所 裕幸 | 大越 義之 | 金剛 清輝 | 安藤 一浩 | 子島 和則 | 加藤 隆  | 吉澤 正光 | 遠藤 一郎 | 荒井 正明 | 小高 幹博 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |      |
| 中島 貴司 | 本郷 隆一 | 鈴木 誠一   | 白根 雅之 | 竹ノ谷繁雄 | 臼井 登  | 久津間信明 | △3口▽  | 川上 元志  | 武田 利之 | 飯田 武彦 | 野口 茂雄 | 青木 菊生 | 青木 穂高 | 常岡 秀和 | 長谷川治生 | △2.5口▽ | 萩原健太郎 | 鈴木 伸一 | △2口▽  | 鎌田 信悟 | 山口 真吾 | 飯田 純一 | 丸山 智久 | 藤田 光信 | 斎藤 洋  | 山浦 正路 | 福井 康裕 | 清水 洋  | 由田 晃久 | 渡邊治雄  | 石橋 文人 | 松野 肇  | 相田 貴史 | 菊池 良祐 | 諸井 貴弘 | 星野 英世 | 和野 智史 | 木村 俊亮 | 深町 和久 | 吉野 功二 | 両角 圭史 | 土橋 弘靖 | 水村 清  | 栗田 章平 | 原口 健治 | 山口 信  | 小野 博規 | 倉本 敦  | 松縄 敦  | 長谷川博章 | 真保 治  | 岡澤 乘夫 | 吉田 茂典 | 大野 文貴 | 橋本 学  | 菅原 悟  |       |       |      |
| 大坂谷良弘 | 小峰 修  | 須郷 淳    | 川崎 英行 | 大井 智之 | 根岸 成美 | 小川 博  | 大江 和仁 | △1.5口▽ | 森宗 孝文 | △1口▽  | 西川 隆夫 | 遠藤 晃  | 中西 崇  | 谷井 良  | 大野 卓也 | 並木 雅紀  | 芳野 誠  | 石川 大介 | 椋木 隆行 | 堀内 忠  | 加藤 裕基 | 岡崎 徹  | 間宮 政史 | 山田 裕一 | 榎本 隆司 | 西崎 俊典 | 小野 貞悟 | 須田 貞之 | 佐藤 貴俊 | 渡辺 久訓 | 日吉 勝巳 | 中島 洋典 | 金子 政晴 | 立石 智己 | 川崎 和行 | 長谷川真一 | 山内 敬明 | 加藤 淳一 | 宮沢 啓一 | 沼上 和路 | 古屋 昌利 | 鈴木 一博 | 斉藤 裕一 | 三田 孝幸 | 小泉 賢二 | 鈴木 勝己 | 高宮城 正 | 大野 秀樹 | 内田 健  | 橋田 孝  | 苑知 哲男 | 松下 英正 | 萩原 康次 | 須田 慎二 | 大塚 博哉 | 丸井 寛之 | 近間 悟  |       |      |
| 正木 卓  | 龜巻 勝晴 | 吉野 智    | 高橋 英章 | 三橋 卓  | 秋葉 透  | 南部 隆  | 遠藤 聡  | 広瀬 貴規  | 依山 寛司 | 岡野 守  | 尾崎 裕一 | 田代 享一 | 北園 祐生 | 飯野 均  | 伊澤 仁  | 有坂俊一郎  | 岡村 典明 | 茂山 裕一 | 栗林 直樹 | 富岡 克之 | 山口 美也 | 斉藤 晃弘 | 加倉井克則 | 村上 和聰 | 日野 裕樹 | 松崎 直美 | 古田 順一 | 斉藤 英寿 | 荻野 良彦 | 吉田 浩之 | 長部 友則 | 松澤 豊  | 前川 雅文 | 三好 琢  | 津田 征志 | 小野沢豊彦 | 宮森 清勝 | 橋口 忠典 | 狩野 正敏 | 栗原 智  | 遠藤 聡  | 広瀬 貴規 | 依山 寛司 | 岡野 守  | 尾崎 裕一 | 田代 享一 | 北園 祐生 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |      |
| 鈴木 聡  | 藤波 幸治 | 菅谷 淳一   | 宮島 大輔 | 細田 新一 | 作間 敬史 | 鈴木 智之 | 高橋 頼彦 | 水野 善孝  | 斎藤 貞  | 福井 繁  | 花崎 泰人 | 神田 快  | 石坂 裕輔 | 高橋 徹  | 高松 貞弘 | 熊谷 高敏  | 宮 俊輔  | 橋本 博之 | 毛塚 勝美 | 高橋 誠  | 花村 輝之 | 依田 光正 | 島ノ江佳延 | 松崎 徹  | 岩崎 治之 | 松丸 治之 | 川上 雄一 | 箭内 知明 | 榎本 学  | 若林 健  | 横山賢太郎 | 内田 貴雄 | 矢澤正弘樹 | 根岸 明成 | 角田 史雄 | 古茂田 聡 | 構 崇宏  | 野崎 真  | 内田 俊之 | 坂本柄津雄 | 山根 淳一 | 関屋 隆司 | 神田 潤  | 小川 浩  | 根本 崇史 | 杉田 賢司 | 宮 俊輔  | 橋本 博之 | 毛塚 勝美 | 高橋 誠  | 花村 輝之 | 依田 光正 | 島ノ江佳延 | 松崎 徹  | 岩崎 治之 | 松丸 治之 | 川上 雄一 | 箭内 知明 | 榎本 学 |

小野 譽幸 羽生 明彦 清水 洋介 夏目 善弘  
 中村 信 笹木 健一 内藤 城和 岡野 正則  
 山口 陽一郎 阿部 匡文 工藤 登康介 中嶋 剛  
 渡辺 智孝 有本 明文 栗田 嘉友 太田 修司  
 山田 兼司 川崎 智斗雄 小川 智幸 関本 勇  
 柿沼 良行 岡本 大志 細井 樹雄 高瀬 紀行  
 廻田 知儀 内藤 泰昭 宮沢 章 榑田 雅晴  
 竹内 祥雄 岩田 真一 湯沢 真 香取 直孝  
 武藤 俊彦 武井 雅宣 甲田 良智 山田 敏浩  
 近藤 高史 高橋 央 平沼 伸吉 千原 行恭  
 古橋 芳峰 羽方 章 木津 明 森藤 周彦  
 齊藤 博和 田村 公命 五百 住裕久 小松 弘樹  
 大野 直紀 壁下 撰 西條 誠 馬場 進  
 安野 伸浩 土肥 真一郎 鶴岡 慎也 手塚 利治  
 赤木 信哉 本橋 英樹 村田 拓郎 川崎 庸二  
 岡田 洋 田口 信也 豊嶋 英生 内田 俊之  
 津久井 大雄 正野 孝 岸田 茂之 田端 健三  
 皆川 正博 桜井 栄一 土井 隆志 関根 清  
 藤井 毅 齊木 博文 鈴木 茂 為我井 仁  
 村井 好樹 平沢 直秀 小長 高明 野田 弘二  
 遠藤 雅也 関仁 匡史 猪股 友彦 小長 俊彦  
 高久 裕充 関根 理 萩原 伸幸 小林 仁  
 植原 広之 加藤 和浩 長田 邦彦 為良 仁志  
 関根 克己 浅野 幹志 吉野 光治 田中 重治  
 七海 寛昭 八坂 英明 小岩 善明 加藤 良規  
 小林 信男 柳田 好夫 宮坂 靖彦 兒島 徹  
 井上 誠也 井上 和也 細谷 真人 山下 宣範  
 井上 龍也 上原 晃司 佐藤 雅志 千葉 徹  
 町田 孝広 松下 孝広 松岡 雅志 諸口 政人  
 永井 満 永井 教道 伊藤 清九郎 市川 晃司  
 能島 正道 小野 大吾 河合 進 小畑 晃司  
 日色 眞覚 塩澤 裕靖 三宅 裕明 降矢 大助  
 明石 俊典 中島 東一郎 国田 健作 佐藤 健作  
 浜中 伸治 新井 雄三 河本 努 長谷部 裕次  
 寺島 大地 荒井 伸一 高田 雅之 佐藤 洋司  
 小塚 昌宏 杉浦 祐一 竹中 勇人 谷澤 規昭  
 松本 一真 浜谷 悟司 中島 秀和 京谷 佳典  
 青沼 喜典 小川 徳久 平 健二 五十嵐 一徳  
 関 博之 溝渕 健志 佐野 順也 行武 靖浩  
 中山 伊智郎 三浦 明 野々山 洋之 板垣 裕一  
 岡村 紀生 島田 智之 竹内 謙一 加藤 雄一  
 永田 誠人 及川 宣治 尾上 元久 安 一徳  
 久保田 裕 植野 健一 青木 博士 尾崎 肇  
 佐藤 徹也 田口 静司 中島 則和 小林 昭弘  
 菅 大治郎 山田 弘明 菅 大治郎 菅 大治郎  
 下村 武史 野木 俊克 高柳 康雄 坂本 欣史  
 嶋田 正人 (順不同)

## 全員集合.!!

### “同窓会創設20周年記念式典”開催

日 時：平成7年8月20日(日)

午後1時～3時

場 所：川越東武ホテル 0492(25)0111

会 費：1期生～8期生 ￥8,000

9期生～15期生 ￥6,000

16期以降 ￥4,000

※当日、同窓会の総会も併せて実施する予定です。

※詳細につきましては、城西川越高等学校、高柳 (Tel.0492(24)5665) まで

# 母校このごろ

## 中学校

### スキー教室

僕は、スキーがはじめてだったので、最初は本当に楽しかったです。よくテレビなどでスキーをしている人を見るとスピードにのり、いとも簡単に急な雪の斜面をすべり降りています。僕自身、案外楽に滑れてしまうのではないかとこの期待を多少持っていました。しかし、現実はずいぶん違います。スキー靴を履いて歩くと歩きづらく、転びそうになるし、板は重く肩が痛くなり、スキー場につく前に、くた



びれてしまうほどでした。今度は板を履き目標地点へ行くのですが、滑って前に進むことができません。しかたがないので板をはずし、歩いて行くことにしました。滑り方というものは、口で言ってもうえると分かった気がしますが実際やってみると難しく、静止していることすらできません。おかげで見当違いの所へ滑ってしまい、転んでばかりいて、しかも起き上がるのができず本当に苦痛でした。ほとんど失敗で、一日目がすぎ、二日目、前日良く寝たので疲労はあまり残りませんでした。がやはりスキーの腕はいつかこうに上がります。他の人はほとんど上手になっていき僕だけとり残された感じになると焦りを感じていっそう勝手に転ぶようになるだけで、唯一上達したと感じるのは起き上がり方だけでした。そんな僕に先生方は熱心に指導をしてくださって、ついに僕は、コツをつかみ、二日目の後半にはなんとか転ばず滑れるようになって、もう言葉では言い表せないほど感激しました。もし、またスキー教室へ行く機会があれば、またこの爽快感を味わいたいと思います。(二二一 富田輝弘)

## 高校



今回は高校の運動部・同好会について紹介したいと思います。  
 ①部名②顧問③部員数④戦績・活動⑤一言、の順で紹介します。  
 ①硬式野球②佐藤高・斉藤栄・増沢力③28名④6年夏・県大会4回戦⑤目標 甲子園  
 ①サッカー②西沢武③68名④6年インターハイ県予選32位  
 ①陸上競技②鈴木進③32名④関東大会2位 富山インターハイに出場⑤山片山崇⑥運動と学習の両立を目指し頑張っています。  
 ①バレーボール②高野敏行・相田暢正・会田広一③18名④地区予選コート決勝進出⑤毎年夏合宿で

はOBの指導を待っています。  
 ①バスケットボール②原俊英・嶋田正人③51名④西部地区ベスト16・県大会2回戦  
 ①テニス②松田鉄三・伊藤修・浅野英吾③28名④学総大会団体戦ベスト64  
 ①ソフトテニス②中沢久男③10名④地区大会2回戦  
 ①ハンドボール②飯島謙一郎・阿部尚武③17名④6年関東大会予選ベスト32⑤少ない部員数ではあるが、伝統を生かして頑張っている。  
 ①水泳②新藤清③10名④4月9月・川島町営プールにて水上トレーニング。10月3月・校内にて陸上トレーニング。  
 ①柔道②市川邦臣③6名④部員不足のため満足な練習ができていない。  
 ①ラグビー②日色真寛・神津和明③37名④国体西部地区予選2位  
 ①バドミントン②田面洋一③27名④学校総体地区予選団体戦ベスト16⑤合宿などOBの協力に感謝しています。  
 ①卓球②内多義高・宮岡邦吉・渡辺聡③9名④西部地区団体戦2回戦⑤県大会出場を目指し、短い練習時間の中で規律正しい練習を行っています。  
 ①山岳②押田壽人③2名④夏休



みには北アルプスで合宿。その他沢登りなども実施。  
 ①軟式野球同好会②鈴木孝三・田辺幸雄・坂本史③22名④月に一度、練習試合を実施。  
 ①ゴルフ同好会②平沢理・佐々木茂・斎川武志③13名④活動場所は、食堂裏のネット。活動日・時間は各目的都合に合わせて選択。以上、簡単ではありますが紹介してまいりました。どの部活も、OBの方々が残して下さった伝統を守り、一生懸命活動しております。OBの方々もお時間ございましたら、是非遊びに来て、後輩の指導をしてあげてください。尚、次回は、高校の文化部について紹介する予定です。

## 平成6年度入試 大学合格者数

### <国公立大学>

平成6年4月

大学	現役生	過年度生	合計	大学	現役生	過年度生	合計	大学	現役生	過年度生	合計
北海道	2(3)	1(3)	3(6)	東京学芸	0(2)	3(2)	3(4)	鳥取	0(0)	1(0)	1(0)
東北	0(3)	2(3)	2(6)	東京工業	2(0)	1(2)	3(2)	徳島	0(0)	1(0)	1(0)
福島	0(0)	1(0)	1(0)	東京商船	0(0)	1(1)	1(1)	高知	1(0)	1(0)	2(0)
茨城	1(0)	0(1)	1(1)	東京農工	5(2)	4(3)	9(5)	熊本	0(0)	1(0)	1(0)
筑波	2(2)	1(0)	3(2)	一橋	0(0)	1(1)	1(1)	創路公立	0(0)	1(1)	1(0)
宇都宮	1(2)	0(1)	1(3)	横浜国立	2(1)	0(1)	2(2)	会津	1(1)	0(0)	1(1)
群馬	3(2)	0(0)	3(2)	新潟	1(0)	1(0)	2(0)	高崎経済	1(8)	3(0)	4(8)
埼玉	7(21)	5(4)	12(25)	金沢	2(0)	0(0)	2(0)	東京都立	3(2)	2(2)	5(4)
千葉	5(1)	4(3)	9(4)	静岡	0(1)	1(0)	1(1)	都立科学技術	1(0)	0(1)	1(1)
電気通信	2(2)	1(2)	3(4)	豊筑技術科学	0(0)	1(0)	1(0)	横浜市立	0(4)	1(2)	1(6)
東京医科歯科	1(0)	0(0)	1(0)	三重	0(0)	1(0)	1(0)	その他	0(10)	0(8)	0(18)
東京外国語	1(0)	0(0)	1(0)	大阪	1(0)	0(0)	1(0)	合計	45(67)	40(41)	85(108)

### <大 学 校>

大 学 校	現 役 生	過 年 度 生	合 計	大 学 校	現 役 生	過 年 度 生	合 計	大 学 校	現 役 生	過 年 度 生	合 計
防 衛	3(4)	0(6)	3(10)	そ の 他	0(1)	0(1)	0(2)	合 計	3(5)	0(7)	3(12)

### <私 立 大 学>

大 学	現 役 生	過 年 度 生	合 計	大 学	現 役 生	過 年 度 生	合 計	大 学	現 役 生	過 年 度 生	合 計
東北福祉	0(0)	1(0)	1(0)	大東文化	20(20)	43(57)	63(77)	独協医科	0(0)	2(0)	2(0)
帝京	11(4)	8(10)	19(14)	拓殖	0(7)	5(17)	5(24)	同志社	1(1)	2(7)	3(8)
埼玉工業	0(1)	1(4)	1(5)	多摩	1(0)	0(1)	1(1)	立命館	0(3)	9(6)	9(9)
城西	8(34)	13(14)	21(48)	玉川	0(3)	2(0)	2(3)	京都産業	1(0)	0(0)	1(0)
駿河台	10(8)	19(3)	29(11)	中央	26(29)	37(38)	63(67)	東京造形	0(0)	1(2)	1(2)
東京国際	8(13)	7(23)	15(36)	東海	3(5)	10(7)	13(12)	日本獣医畜産	0(0)	2(1)	2(1)
独協	3(2)	4(5)	7(7)	東京経済	6(9)	16(15)	22(24)	明治鍼灸	1(0)	0(0)	1(0)
文教	0(3)	3(3)	3(6)	東京工科	1(3)	2(3)	3(6)	多摩美術	0(2)	1(1)	1(3)
明海	1(0)	3(5)	4(5)	東京電機	13(12)	14(17)	27(29)	麗沢	1(1)	0(1)	1(2)
千葉工業	3(5)	2(4)	5(9)	東京農業	1(4)	0(1)	1(5)	麻布	0(1)	2(1)	2(2)
千葉商科	0(0)	1(0)	1(0)	東京薬科	0(0)	5(3)	5(3)	白鷗	1(0)	0(0)	1(0)
中央学院	0(3)	1(2)	1(5)	東京理科	19(22)	25(14)	44(36)	武蔵野美術	0(0)	2(2)	2(2)
青山学院	16(15)	20(23)	36(38)	東邦	2(0)	4(3)	6(3)	北海道薬科	0(0)	1(0)	1(0)
亜細亜	3(2)	6(22)	9(24)	東洋	25(26)	55(66)	80(92)	應 羽	0(0)	1(0)	1(0)
学習院	8(6)	25(11)	33(17)	日本	60(70)	72(71)	132(141)	桐蔭学園横浜	0(0)	1(1)	1(1)
北里	2(0)	2(1)	4(1)	法政	24(19)	43(50)	67(69)	近 畿	0(0)	1(1)	1(1)
慶応義塾	2(6)	11(9)	13(15)	武蔵	23(7)	44(25)	67(32)	立 正	0(3)	3(14)	3(17)
工学院	14(17)	9(5)	23(22)	武蔵工業	2(3)	4(6)	6(9)	昭和薬科	0(1)	2(0)	2(1)
国学院	2(1)	6(5)	8(6)	明治	22(38)	54(49)	76(87)	国際基督教	0(1)	2(0)	2(1)
国士館	2(4)	4(13)	6(17)	明治学院	3(4)	7(16)	10(20)	神田外語	1(0)	0(1)	1(1)
駒沢	11(13)	22(32)	33(45)	明治薬科	1(0)	2(5)	3(5)	星 薬 科	0(0)	1(1)	1(1)
芝浦工業	4(6)	6(7)	10(13)	明 星	3(3)	3(6)	6(9)	聖 学 院	0(3)	1(1)	1(4)
上 智	6(4)	12(8)	18(12)	立 教	8(18)	29(15)	37(33)	足利工業	1(0)	0(1)	1(1)
成 蹊	16(24)	20(19)	36(43)	早稲田	6(22)	35(33)	41(55)	龍 谷	1(0)	0(0)	1(0)
成 城	2(9)	17(12)	19(21)	神奈川	0(2)	2(11)	2(13)	そ の 他	0(6)	0(26)	0(32)
専 修	3(5)	10(16)	13(21)	関東学院	1(1)	2(3)	3(4)	合計	413	782	1195
									(534)	(855)	(1389)

※ ( )内は昨年度合格者数

### <卒業生進路状況>

大 学	159名	49.1%	就 職	1名	0.3%
短期大学	0名	0.0%	進路未定	164名	50.6%
専門学校	0名	0.0%	合 計	324名	100.0%

### <城西大学推薦入学者数>

経済学科	1名	薬学科	1名
経営学科	1名	製菓学科	0名
数学科	0名	化学科	0名
		合 計	3名

# OB会活動シリーズ

## バレーボール部

バレー部には、まだ本格的なOB会組織といったものは存在しません。しかし毎年行われる春・夏の校内合宿には、いつも十数名の卒業生が顔を出し、思い出さき体育館で現役とともに汗を流し、往年のプレーを再現しようと張り切っています。

## 一期生有志

現役の頃は地獄のように思えた合宿でも、OBにとつての合宿は先生や先輩・後輩との親睦を深める恰好の機会です。試合や合宿の普話しは尽きることなく、夜遅くまで語り合うこともあります。

突然、同じクラスだった丸井から電話があり、「横田が、高坂で『要次郎』というお店をやっているから、何人かで集まろう。メンバーは一回目でもあるし、まず近

場の人に連絡し、次にその人が別の人に連絡すればいいし、メンバーは集まってからの楽しみにしよう。」という事でした。集まった仲間は、高校時代の備おじさんになった、荒井・大坂合・小川・長坂・町田・丸井・三村・宮城・横田の九名でした。ここの話題は、もう時効に成っているとは言え、問題のある内容のものが多いので御披露出来ませんが、有名人だったアメリカへ行っている○○君や行方不明の○○君にも出席を願ひ、楽しい時間を過ごしたいと思っています。

## リレー・エッセイ

この橋を通る度にあの頃を思い出します。  
昭和五十二年当時、私は、橋川駅からのバス通学でした。現在のようにスクールバスはなく、一時間に二本・三本の本数でした。学生手帳にあまりない時刻表を書いたものです。朝もバスが少ない為バスは城西生等でもいつもキョーギュー結め、雨など降ったらそれはそれは大変でした。バスの中はもちろんの事、バスを降りると今度

はぐしゃぐしゃになった泥道を歩いて通ったものです。時にはのどかな田園の中、へびやイタチに出会いながらの行き帰りで

校の生徒とのいざこざに巻き込まれしはらくバス通学が恐くて道路でヒッチハイクして帰るなどそれはそれは高校生活の想いは私の中ではこのバス通学での学校の行き帰りが非常にインパクトの強い思い出の一つになっていきます。  
あれから17年の年月が過ぎました。妻の実家が川越にあるために釘無橋を半年に一度は通ります。通る度にあの頃を思い出し、なつかしく思います。

### 釘無橋

4期生 小畑 秀人

## 退職・新任

◇退職  
遠山セキ子(事務)

◇新任



会田 広一 (理科)



道祖土 由起 (事務)



P・デビット (英語)

### 寄稿のお願い

同窓生のご活躍の様子や同級会などの報告を事務局までお知らせ下さい。  
川越市山田東町一〇四二  
同窓会事務局  
☎〇四九一三四一五六六代



同窓会三十周年記念式典がいよいよ間近に迫りました。二十歳といえは人間なら成人にあたり、子供から大人へと変革する時で、創立二十周年を既に過ぎた我々が城西大が改善され、あるいは新築され、また中学校が出来ると、子供から大人へではないにしても大きく変わった(勿論いい方向に)ということには、誰も異存はないと思われまます。

そのような字び会を築いた方々で成立しているのが、同窓会です。同窓会も二十周年を迎えました。こちらの方は果たして大きな変革を遂げたのでしょうか。遂げない、と言う方もいらっしゃるかも知れません。しかし二十周年を迎え、これから先、三十周年、四十周年の方へ向かうにあたり、今、同窓会は大変な変革の途中にあると言えるかも知れません。あるいは第一歩を踏み出した、とも言えるでしょう。今後の母校、ならびに同窓会の発展と栄光を祈りまた誓う意味でも、皆様どうか、記念事業、また今後の同窓会活動に、御協力お願い申し上げます。  
(十八期生 高山聡)